

## 作家『有川 浩』が好き！！

医療秘書科支部 澤根智子（9期生）

私と有川氏との出会いは、本屋さん。『三匹のおっさん』が作品としての初対面でした。内容としては、現役引退後の嘱託職員で剣道の達人「キヨ」、居酒屋を営む柔道家の「シゲ」、機械に詳しく改造モデルガンやスタンガンを所有する「ノリ」の3匹のおっさんによる痛快娯楽作品です。読んでいる途中、魅力的な登場人物にはらはらしたり、じ〜んとしたり、すかっとなったり、読後にはあっぱれ！と思わせる爽やかな感動があったのです。



そこで思ったこと。有川浩って、男性？女性？

ノリさんの危ない武器ともいえる機械の説明がやたらと詳しく、マニアックぶりを発揮している点から言えば、間違いなく男性。しかしながら、登場人物それぞれの感情の機微の表現は、複雑な解釈が苦手な私の心にもすんなり入ってくるもので、女性ならでは、な感じなのです。こんな風にハテナ？で頭が一杯になることこそ、心をつかまれている証拠なのでしょうね。

はたして、有川浩氏は女性でありました。当然意外であり、納得なのでありました。それから彼女の作品は、折に触れ私の通勤バッグの中に入っています。

どの作品も心に残るものばかりですが、私の中では自衛隊シリーズがお気に入りです。この自衛隊シリーズは現実離れした敵（知的生命体：航空自衛隊「空の中」とか、巨大ザリガニ：海上自衛隊「海の底」とか、塩：陸上自衛隊「塩の街」）に立ち向かう勇敢な自衛官と彼らの恋愛が絡んだ秀作の三部作です。

それまで自衛隊といえば、有事の際の軍事訓練と災害時の救助活動くらいで、あまり身近に感じられない方々だと思っていました。がしかし、このシリーズに登場する自衛官は一癖もふた癖もありますが、いずれも（女性も）男前で私のタイプなのです。しかも、尊敬に値する機知の持ち主であり、ほんとに惚れ惚れです。窮地を脱する英知と勇気と優しさに感動です。

また、このシリーズにも硬軟が織り交ぜられているところが、彼女らしいところ。自衛隊特有の組織名称や軍事用語など聞きなれない単語と、自衛隊ならではの精神的厳しさを表現している硬質な部分と、とろけそうになる甘くて切ない恋愛の軟質な部分の絶妙なバランスにうなされるわけです。

このほかにも「阪急電車」や「植物図鑑」なども、なんとなく元気が出てくる作品で、特に女性には受けると思うので、お勧めです。

秋の夜長に彼女の作品をじっくり噛みしめてみませんか？